

メキシコもアメリカも移民社会の国

矢野 恵久

要旨

私の異文化で過ごした、30年数ヶ月（メキシコ約8年、パナマ半年、アメリカ約22年）を過ごした経験から、思い出した諺に「井戸の中の蛙大海を知らず」と「一寸先は闇」、をメキシコ、アメリカに住んで体験した話を致します。

1985年9月19日、午前7時少し過ぎに起きたメキシコ市の大地震と2006年12月（64歳4ヶ月）にリタイヤ後、リタイヤする前から準備していた第二の人生、サンジェゴでメキシコに進出する、日系中小企業のアドバイザー兼通訳の仕事と日系社会での社会奉仕活動を2007年1月から始めた矢先に起きた。アメリカでの試練を通し移民社会で体験した、人の絆には国境がない事を教えてくれました。

私は日本に帰国かサンジェゴに残るかの選択に追い込まれました。まさに一寸先は闇をサンジェゴで最後の選択と思い決断をしたのは、手術後の生活を思うと車社会では、難しい判断し方向転換する事にしました。私の決断に人生の伴侶に了解を得られたので、帰国する事にしました。二つの諺、移民社会、異文化体験を活かし第二の人生を日本で生活する決断をしました。日本に住んで早くも2年と数ヶ月が過ぎましたが、常日頃に思うのは、組織を離れた生き方の楽しみの原型は、異文化社会での経験が私を第二の人生に、活かしているように思います。組織を離れた自由な時間を自分で計画し実現していく楽しみは生涯現役でいられるテーマを発見しました。テーマは「ネットワークの構築」を作る為に学ぶIT情報学部で更に専門を学び私の生涯の楽しみとしていきます。私が帰国して一番感じるのは、メキシコと日本との違いは大切な命を、自ら絶つ人が日本では遥かに多い事、3月11日の東日本大震災の未曾有の大災害、原子力発電所の災害、少子高齢化社会、財政危機、に見まわれた中で、今こそ自分が出来る事は何かを問われる時代と思います。メキシコは日本と比較して遥かに貧富の差が大きく、経済的にも恵まれなく教育の機会も平等でもなく豊かさには恵まれない人々が多いメキシコでは社会問題にならないのに、日本では、大きな社会問題として取り上げられているのか、日本では年間3万人以上もの人達が、自ら命を絶っていくのは何故なのか私は考えてしまいました。経済的豊かさになれば幸になると信じてきたが、より深刻になり解決出来ないのが、今の日本の現状に私は帰国して思いました。日本は高度経済成長を達成した後に、失われた20年後には、人との絆が崩壊した無縁社会になってしまいました。日本は世界第二位の経済大国になった後の、バブル崩壊後の失われた10年と、リーマンショック後からの経済的大試練を経験した、私の人生後半に海外生活の個人の生き方の体験を活かしていくのに役立っています。リタイヤ後の日本人男性の平均寿命2010年の厚生労働省のデータでは、日本人男性の平均寿命は79年、60歳で退職したとして約20を「毎日が日曜日」をどう過ごすか歴史上に手本が無い、組織を離れた個人が能動的に過すか、受動的に過すかの、選択を求められている時代だと私は感じています。TIME研究会の趣旨に 私は賛同し、この機会に第二の人生に付いて、皆さんと一緒に学びの場ができればと思います。

- 1) 異文化社会で過ごした、温かい社会と冷たい社会。
- 2) リタイヤ後のライフワーク。
- 3) 異文化の効用の人生観。
- 4) 海外生活30年数ヶ月と日本生活約37年を通しての生き甲斐とは？
- 5) 海外年表。

1) 異文化社会で過ごした、温かい社会と冷たい社会。

私の個人的な体験を通し感じた事から話しを始めたいと思います。メキシコでは、日本のよき時代を思わせる数々の人情体験をしましたが、私は人情を感じ合うのは日本だけだと思っていましたが、数々の体験をしましたが仕事に於いては学ぶ事は少なかった。

日本では仕事の常識と思われている「ほうれんそう」報告、相談、連絡は期待できませんでした。仕事で重要な、計画、実行、管理、標準化、改善、品質、等々を理解させるのが難しく日本の常識が非常識に思いましたが、個人生活では日本では出来ない楽しく過ごす事ができました。国が違うと考え方も変えるのが必要なのか、異文化での日本的経営が果して旨く機能するか疑問に思う事がありました。欧米企業が先に進出していましたので、欧米企業経営に慣れているので「協力、協調、チームワーク」の大切さを導入するのに永い時間がかかりました。ではどうするか考えたのが、私という人間を理解させる機会を模索した結果、日本人に比べて、公私混同を区別しないのにはまいりました。個人的にメキシコ社会に入る為に思いついたのが、家に招待し個人的な交わりを通し信頼関係を作るには、自分から人間関係を構築し日本食を自分で作り家族を招待し交わりを通し信頼関係を築いていきました。時間はかかりましたが個人的な絆のお陰で救われたのが、今の時代のような情報社会ではないので、FAXもまだなくあるのは電話とテレックスだけでした。1985年9月19日午前7時少し過ぎに発生した、メキシコ大地震（マグニチュード8.2）で家屋の倒壊、ビルディング、マンション等々の250以上の倒壊し、死者700人以上、の被害が出ました。仕事に行くので、外にでると崩れた家屋がいたるところにあり、私は5階に住んでいましたが、非常外階段はなく、建屋内の階段から避難するのはかえって危険だと思い、揺れが大きく立ってられないので、もう駄目かと覚悟を決めテーブルの下で揺れがおさまるまで待ちました。私の住んでいたコンドミニオンは、9階建てで私は5階に住んでいましたが壁には大きなヒビが入り、大きな窓ガラス（1.5m×2.5m）が割れて落下するのを見ているともう崩れていくのではないかと恐怖に襲われました。メキシコ市は大きな被害を受け電気・ガス・水道は3週間も復旧せず、日本との通信がテレックスの時代で連絡も取れず居た時に、家族同様に親見になって応援してくれ、家屋を提供してくれたのが普段から個人的に懇意にしていた家族に助けられ、非常事態を乗り越える事ができました。メキシコでは頼るのは家族と親戚で支え合う絆が、強固なのを感じましたが、アメリカは核家族型社会の家族単位で個人を優先する冷たさを感じました。私が外国に出る時は、日本の社会も高度成長に入り安定成長に向かっている時でした。私を家族の一員のように心配してくれ大変助かりました。私は外国で情けを掛けられた、体験をするとは思いませんでした。家族の一員になれた喜びを体験し、ティファナ市でも沢山の方が応援してくれた、体験し人情味ある温かい社会を感じたのでした。同じ移民社会でも、スペインとイギリスでは、ずいぶん違い感じました。国境を越えただけで、これ程違う体験は、アメリカ・サンジェゴで過ごした隣近所の交わりは出来ない他人と安易に交わらない代わりに沢山の教会が近くにあるのとチュラピスタ市に住みコミュニティーに参加し繋がりを作る方法しかなく、訴訟社会と言われるので、気楽に交わりが出来ない弊害があるのか、冷たい社会に感じました。メキシコで

体験した社会はなく、隣近所の付き合いはなくメキシコのような近所の人が集まるような事はなく近所と付き合い合う事はなかった。日系人とは互いを招待し合いましたが、サンジェゴでは隣近所で親しくなる機会が出来なかった。メキシコとアメリカの違いを、サンジェゴに20年以上住んで感じたのは、他人とは直ぐに打ち解けあう経験がありませんでした。仕事を通して出来ました、隣近所の付き合いは出来なかった。ティファアナに住んでいるメキシコ人は、サンジェゴで働き、住むのはティファアナと応える人達が多かった。人生の楽しみ方がずいぶん違う事を感じました。アメリカは、自己責任社会が強く大きな政府をこのまない、一度職を失うと国民健康保険はなく、厳しい社会で日本もアメリカ型に向かっているように感じます。高齢化社会の制度と個人の生き方をどのようにするか問われていると私は感じています。アメリカ型か北欧型それとも日本独自の制度にするか、避けてと通れない時を迎えている中で、国を頼れないように思い、問題提起として日本社会のこれからの老後の選択を高齢化社会に入り一人一人に問われているのが、今の日本だと思いながら猶予はないと思い、日本での第二の人生を始める機会と考えたのが、TIME研究会が私の第二の人生の生き方に一致した集まりの場だと思いました。

2)リタイヤ後のライフワーク。

「一寸先は闇」の体験は、アメリカ・サジェエゴで日系社会の奉仕、メキシコと日本が締結した日本が始めて2国間の自由貿易協定をしたのと今迄の経験を活かし始めた日系企業の中小企業のメキシコ進出のアドバイザーと通訳を2007年1月から始めた矢先に、思わぬ病気に見舞われてしまいました。4月頃から歩行に問題が出始め、15分ぐらいすると非常に疲れ休憩しないと、歩けない症状が出始め行きつけのクリニックで、診断を受け腰痛治療していましたが一向に回復せず、5月始め頃に客先の倉庫内で調査する為に、巡回している時に急に足がふらつき倒れてしまい驚き不安になりました。カイロプラクティカで治療したが症状は変わらないので相談したら、カイロプラクティカの日系医師に紹介された日系病院を訪問し、内科での診察後に神経系統に問題がありそうだとされそこで紹介された大きな総合病院のスクリップス病院を紹介され神経内科医の診断をした結果、脊髄全体をMRIで撮影するように言われたので、その病院で撮影するのではなく、別の撮影専門の場所を指示されました。患者の立場からするとなんと冷たいのかと思いました。かなり膝下麻痺があるのに自分で運転し他の場所に行き撮影しその結果は、脊髄の頸椎と腰椎そして食道側の脊髄に付着した石灰状の異物を取らないと食道が塞がるのと、主神経が圧迫されている箇所が脊柱間の頸椎3箇所腰椎3箇所とかなり重症と言われました。手術できるかの診察に耳鼻咽喉科、内科、心臓検査、血液検査、胸部撮影、CTスキャンと全て検査し他の医者が承認をしないと神経外科医は手術しないので、5月から約2ヶ月過ぎた2007年8月に頸椎の3箇所の異常状態の修復と食道側に付いた石灰状の塊を削る2箇所の手術をした。(14日間)2008年2月に腰椎の手術をした。(10日間)日本でしたいと話しましたが、もし転んだら主神経を切断するおそれがあるからと帰国の許しがもらえず、覚悟を決めアメリカでする事に決めましたが、最初に手術費用と手術が成功し無事にいくのか、半身不随なると言われた事を思うとこの試練を受けた時は、一寸先は闇を体験をしましたが、日系社会のコミュニティの繋がりも多くの人達の助けを受けて、無事手術が成功しこうして第二の人生を日本で過ごす事ができました。人生には、何時、何が起きるか解らないからない事を経験した事で、普段からリスク管理は個人のためにも大事である教訓でした。この時に考えたのは方向転換し、新しい方向に向けて旅立つ決断をして、日本に帰国する決断をした。私は帰国して、海外でのコミュニティの経験を、活かせる機会を模索し始め飯田橋にあるNPOの会合に参加したり国の機関が開く退職者のNPOの勉強会に参加したりしていた時に、出会えたのが和智さんを通しTIME研究会の存在を知りました。TIME研究会のポリシーに共感し機会に出会えたのを光栄に思いこの機

会を活かし第二の人生の道が開かれたと思いました。

3) 異文化の効用の人生観。

「井戸の中の蛙追・大海を知らず」2年間のメキシコの *Universidad Nacional Autonoma de Mexico* (メキシコ国立自治大学・国際学部) メキシコの歴史、地理、プレゼンテーション、ラテンアメリカ文化とメキシコの歴史を (アメリカ、カナダ、スイス、フランス、イタリア、フィリピン、ハイチ、ドイツ等々) の国の人達と学んだ経験から如何にして自分の考えを伝えるか又色々な考え方がある事を学びました。違う意見があるのがあたりまえで、どのようにして纏め上げるかを学びながら、よく聞く事が大事である事を学びました。お陰で互いの違いを認め合いながら共存していく、それが移民社会の過ごし方と契約を重視するのだと思いました。仕事では、2006年7月から8月の2ヶ月間、メキシコ人15人とプラズマテレビの技術導入で宮崎県に、生産管理、組み立て、調整、生産設備、品質管理の研修に引率責任者兼通訳で思い出に残るは、温かい国と温かい県は打ち解けた雰囲気、民間交流の花が咲きサッカーの試合等してメキシコと日本の橋渡しの機会を与えられたのは、私の今後の人生に大きな影響を与えました。異文化を通し繋がりを作る架け橋の仕事を生涯に決める事が出来たのが、異文化の効用であり第二の人生観になったと思っています。臨機応変、空気を読めない、恥を知る、努力する、勤勉など日本での美德とされる文化がメキシコでの生活に重要とは思わなかった。それでもメキシコでは、生活出来る事を経験したのは、広く周りを見ながら多様な価値観がある事を学んだ事は、私の第二の人生に異文化の効用が活かされていると思っています。自分の進む道を決めていく人生観を身に付けたと思いました。メキシコで生き甲斐について質問すると日々の生活が楽しければよいとのことで、日本人ほど人生をどう生きるか悩んでいるのを感じませんでした。私も日本に帰国し自分に適した道で、人との交わりを通し会話の楽しみを見つけ、地区のコミュニティにかかわっていく人生を過ごしていこうと考えています。

4) 海外生活30年と日本生活37年の生き甲斐とは？

私の経験では、どの国にも良い点、悪い点があると言う事です。私の生まれ育った日本の良さが永く外国で生活する程、日本の良さが見えてきました。一番の違いは日常生活に日本は、不便を感じないですが、メキシコ、アメリカでは車がなければ日々の生活に影響し弱者には住みにくい国だと思いました。日本は相手側から説明をするが私の経験では、聞かなければ何も知る事が出来ない自らが行動しないと得られない社会で受身では過ごせない、日本では、いたりつくせいのサービスがありますが、メキシコのティファナ市は郵便配達がないので郵便局まで行かなければならず国際郵便はアメリカ側にメールボックスを開設して、受けとっていた。何故ならメキシコに送るとメキシコ市に到着し、そこからくるので1ヶ月近くかかり、時には着かないこともあり。社会保障制度も日本が住んだ中では、一番充実しているように思いました。メキシコは麻薬戦争と言われるくらい治安が悪く警察制度も犯罪捜査の検挙率は良くなく日本に比べたら安全面はよくないです。私も2度ほど危険な目に遭いました。サンジェエゴは気候は最高で、比較的安全ですがメキシコの隣影響が大きくメキシコにいるような感じになりました。役所の書類は、英語・スペイン語と2種類必ずあり中米からの移民の多さが解ります。人間関係は、立て前と本音、空気を読む、気配りをするとか、人間関係の付き合いはメキシコ、アメリカにいると楽でした。私の考えでは、宗教が影響しているように思います。メキシコは、カトリック、教会で懺悔すれば、赦される寛大な社会のようであり個人の責任をあまり厳しく追及しない習慣があるのを感じました。仕事をしていて、怒るのは何時も日本人で、メキシコ上司が怒っているのを一度も見ることがありませんでした。

アメリカは主にプロテスタントで教会を通し繋がる社会に感じました。私の経験では、メキシコもアメリカも恥の文化を感じなかった。自分の意見を持っているのが、受け入れられるので、話す事は社会生活に重要だと思いました。日本では、いいかげんは、デメリットになりメキシコでは、ゆとりになりおおらかでないと、いらいらし気にしない、その時を楽しく過ごし先の事をあまり考えない人生の計画を緻密に立てて過ごさない、明日は明日の風が吹く生活がメキシコだと思いました。アメリカは個人主義の強い国と肌で感じました。私の経験した海外生活と国内生活を通し優しい社会は、日本であり日常は住みやすい国であり和の精神が日本の良さであり特徴だと思いました。私の希望は、日本が高度成長から安定成長に入ると共に少子高齢化社会に入り、希望する社会は北欧型の社会に似た制度で高齢者に住みやすい社会に向けて、少しでも貢献できれば海外と日本に住んで考えるのは、他の国の良い点と人生を楽しむ方法は経済的な面だけを考えるのではなく、楽しい会話とゆとりある人生の交わり場を作り精神的な豊かさや絆を持てる社会にする場を作る手助けが出来ればと思っています。会話を通して楽しむ集まりが沢山できればと外国に住んだ体験から、交わり場が出来ると活動していくのが私の人生観であり生き甲斐です。他人と比較して生きていくのではなく、男の話好きは日本ではマイナスイメージですがこれからは費用もかからないで楽しい集まりを作っていきたいと考えている今それを行動に移す時だとそれが目標であり生き甲斐になっています。和の文化と個人を優先する文化をどのようにして調和させながら、機会を作り日本の和と個人が楽しくなる文化を作る場の奉仕の仕事を考えています。

5) 海外年表。

西 暦	日本の年号	メキシコ・アメリカ記事	日本・自分記事
1976年	昭和51年	メキシコ：ロペス・ポルティージョ (任期6年)再任無し。 大統領就任した。(PRI) 制度的革命党 前政権が残した経済危機でIMF (国際 通貨基金) の勧告を受け入れて緊縮財政 を行った。石油依存経済は、脆弱が露呈し 更に悪化した。 アメリカと日本の貿易摩擦激化。	
1977年	昭和52年	アメリカ：カーター大統領就任した。 (民主党)	
1978年	昭和53年		5月20日新東京国際空港 開港。 8月 私がメキシコへ学び と仕事2年間 (UNAM)。 着いた時の街中は1958 年 (昭和53年) にタイム・ スリップしたように感じた。 日中平和有効条約調印。 サン・シャインブル完成。
1979年	昭和54年		私はメキシコ滞在。

1980年	昭和55年		8月私はメキシコより帰国。
1980年	昭和54年		10月メキシコへ出発。
1981年	昭和56年	アメリカ：レーガン大統領就任した。 (共和党)	メキシコ
1982年	昭和57年	メキシコ：累積債務876億ドルを抱えた。 デ・ラ・マドリー大統領就任 した。(PRI) 制度的革命党 緊縮財政とペソ切り下げをした。 国民生活は窮乏した。	
1983年	昭和58年		6月パナマへ半年 12月パナマからメキシコ に帰国。
1984年	昭和59年		メキシコ
1985年	昭和60年		メキシコ
1986年	昭和61年	累積債務1000億ドルを越えた。	3月メキシコから ティファナ マキラドーラ (テレビ工場)
1987年	昭和62年		ティファナ
1988年	昭和63年	メキシコ：サリナス・ゴルタリ 大統領就任した。(PRI) 制度的革命党 このころから一党独裁の 衰退が始まった。	3月ティファナからサンジ 移動。 毎日国境を行き来した。
1989年	平成元年	アメリカ：G・H・W・ブッシュ大統領 就任した。(共和党)	サンジェゴとメキシコ
1990年	平成2年		サンジェゴとメキシコ
1991年	平成3年		サンジェゴとメキシコ
1992年	平成4年	北米自由貿易協定締結 (NAFTA) カナダ・アメリカ・メキシコ 三カ国の関税撤廃。	サンジェゴとメキシコ
1993年	平成5年	アメリカ：クリントン大統領就任した。 (民主党)	

1994年	平成 6年	メキシコ：エルネスト・セディージョ 大統領就任した。 (PRI) 制度的革命党 前政権の汚職の後始末と大統領候補 候補ドナルド・オロシオが暗殺 された問題とサパティスタ国民解放軍。 (EZLN) 問題解決に追われた。 永い間政治不信が続いた。 メキシコで12月通過危機勃発。	サンジェゴとメキシコ
1995年	平成 7年		サンジェゴとメキシコ
1996年	平成 8年	メキシコ：中米自由貿易圏の設立。	サンジェゴとメキシコ
1997年	平成 9年		サンジェゴとメキシコ
1998年	平成10年		サンジェゴとメキシコ
1999年	平成11年		サンジェゴとメキシコ
2000年	平成12年	メキシコ：ビセンテ・フォクス 大統領就任した。 (PAN) 国民行動党 設立以来71年続いた一党 独裁体制が終了した。	サンジェゴとメキシコ
2001年	平成13年	アメリカ：G・W・ブッシュ大統領 就任した。(共和党) 9月11日 同時多発テロが起きた。	サンジェゴとメキシコ
2002年	平成14年		サンジェゴとメキシコ
2003年	平成15年		サンジェゴとメキシコ
2004年	平成16年		サンジェゴとメキシコ
2005年	平成17年		サンジェゴとメキシコ
2006年	平成18年	メキシコ：国民行動党 (PAN) ・ 制度的革命党 (PRI) 民主革命党 (PRD) で大統領 選を争ったが少しの差でフェリペ・ カルデロン大統領就任した。(PAN)	7月から8月 2ヶ月間宮崎県宮崎市 プラズマテレビ技術導入と 組み立て・調整等々の研修 の責任者兼通訳・翻訳。 サッカーの交流親善試合 で草の根の交わりをした。

2006年			12月リタイヤした。
2007年	平成19年	世界金融危機始まった	1月から始めたメキシコに進出する中小企業のアドバイザー・工場設営の相談・物流・社会奉仕 5月体調を崩し仕事休業。 7月から8月手術の為入院。 多重脊髄管狭窄症と食道側の首の骨に付着した石灰の除去手術。 リハビリと静養。(1年間)
2008年	平成20年	アメリカの住宅バブル。 9月リーマンショック。 100年一度の大不況。 高速道路にトレーラーを殆ど見かけなかった。 物流の大変化を感じた。	8月から10月帰国の準備。 11月帰国した。
2009年	平成21年	アメリカ：オバマ大統領就任した。 (民主党)	5月まで静養・整理・手続き。 6月からNPOの調査。 半年間静養。
2010年	平成22年		10月メキシコ・日本友の会に入会し交わりをしている。
2011年	平成23年		1月メキシコ大使館での「19世紀からのメキシコ政治現代に至るメキシコ政治の発展」イベロ・アメリカ大学教授による講演会。 民主守護は始まったばかりメキシコとの異文化交流を続けている。

以上